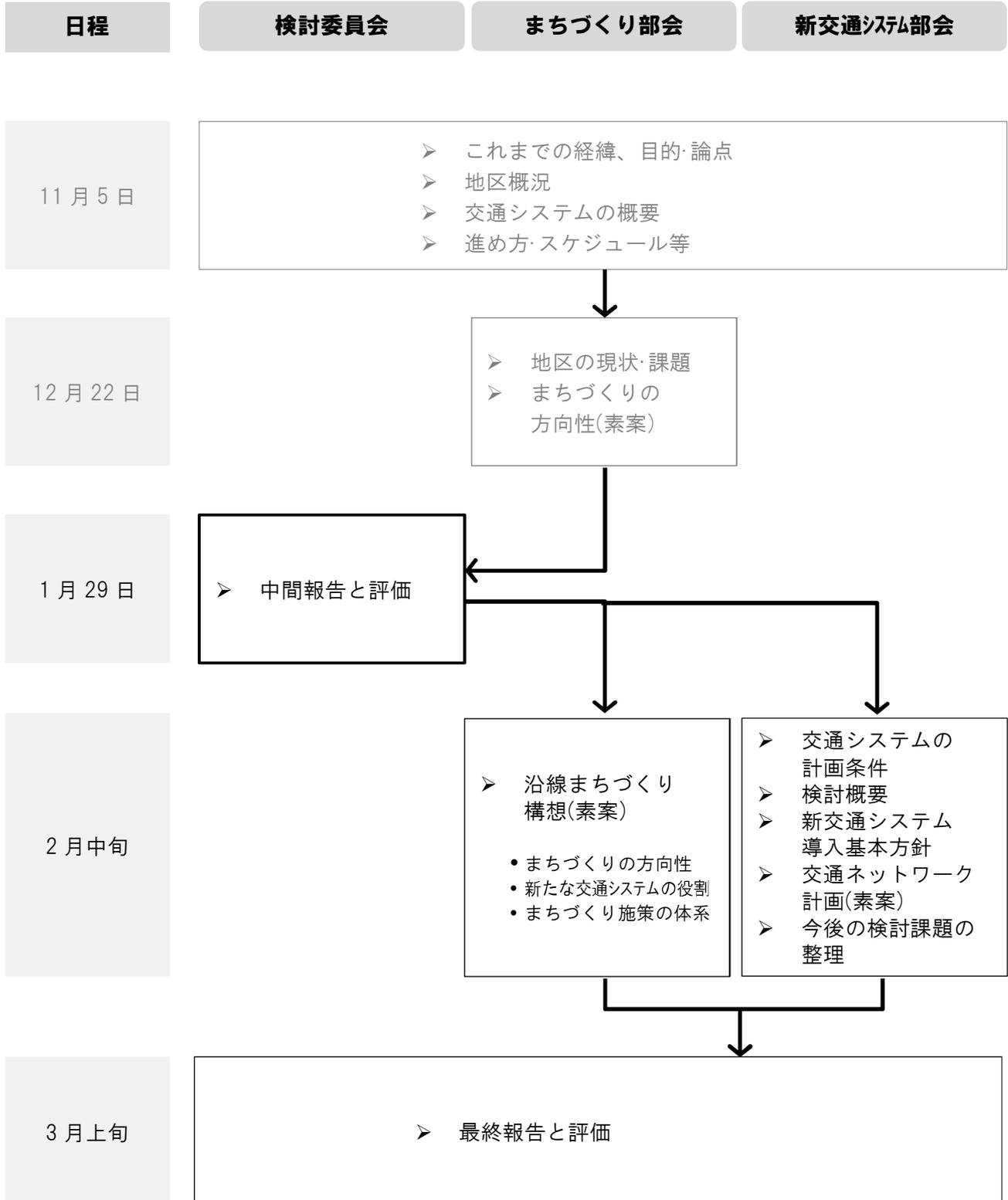


今年度の検討スケジュール



第1回 小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会
まちづくり部会・新交通システム部会（合同会議）

議事要旨

1. これまでの経緯等について

(1) 小山市まちづくり総合交通戦略について

- ◇ 高岳引込線沿線の地域分断の解消はどのようなことを考えているのか。(A委員)
 - ▶ 踏切にするか信号にするか等の具体的な方法は、軌道法か鉄道事業法のどちらに基づく事業にするかにもよるため、今後の検討課題としたい。(事務局)

(2) 新交通システムについて

- ◇ BRT（バス高速輸送システム）は検討対象になるのか。(B委員)
- ◇ 鉄軌道以外にも選択肢を広くすることも考えらえる。(大森宣暁副委員長)
- ◇ 鉄軌道であれば BRT は対象外となる。高岳引込線の鉄軌道の活用を前提にすれば、議論が発散しなくてよい。(C委員)
 - ▶ 交通システム部会で整理してほしい。事務局でも対象を明確にしてほしい。(永井委員長)
- ◇ これまでに何が決まっていて今後何を決めようとしているのか。(D委員)
 - ▶ 東光高岳による貨物利用の機能を残し、公共交通としても活用したいことが前提。(事務局)
- ◇ 蓄電池式車両は開発段階ではなく、台湾等では実際に走行している。(C委員)
- ◇ 概算費用を提示していただきたい。(E委員)
 - ▶ 概算費用は一般的な事業費であれば今年度に提示可能である。(事務局)

2. 討議の論点と進め方について

- ◇ 小山市全体の中で、各々の地区で何をされていて当地区はどんな方向性で魅力を高めるのか補足説明してほしい。(F委員)
 - ▶ 次回のまちづくり部会で資料を用意する。(事務局)
- ◇ 今ある高岳引込線のレールの活用を前提に議論した方がよい。(C委員)
- ◇ まちづくりが求める内容により交通システムの方向性が決まってくる。高岳引込線沿線のまちづくり関係の構想はあるのか。(G委員)
 - ▶ 当地区におけるまちづくりの計画は無いため、新たな構想が必要である。(事務局)
- ◇ 当地区のエネルギー関連の取り組み等も紹介しながら、スマートコミュニティや高齢者にやさしいまちづくり等についても議論できればと思う。(豊川副委員長)
- ◇ まちづくり部会で議論したことを交通部会に情報提供してほしい。(H委員)
- ◇ まちづくりの方向性が決まらなるとそれに合った新交通を選択できない。(I委員)
- ◇ レールの活用が前提であれば交通システムの方向性は絞られる。交通部会でもまちづくり部会と並行して検討することは可能である。(C委員)
 - ▶ 必ずしもまちづくりの検討が先行する必要はなく、交通からみたまちづくりの提案もできる。理想はまちづくりから必要な交通システムを検討することだが、実現性や経済性の議論も関係してくる。各部会で検討する範疇を明確にしながら、できることを議論してはどうか。(永井委員長)

以上

小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会

まちづくり部会の意見概要

(平成 27 年 12 月 22 日 (木) 実施)

現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地との接続が良いことが本地区の強みだと思う。市民アンケートでは高齢者の方が買い物などの利便性を求めて中心部に住みたいと考えられる。 小山東ニュータウンは、団塊の世代が中心で 2025 年には住民の半分以上になるという試算をしている。新規、若い世代の流入は多くなく、小学生の数もどんどん減っている。高齢者にやさしいまちづくりを進めている。 毎年 50 軒程度世帯数が増えている地区もある。 旧小山地区には交流センターがなく東出張所を利用している。
まちづくりへの意向	<ul style="list-style-type: none"> 人口が増加している地区と減少している地区があるので、そこをつなげることが大事。沿線に住む人の利便性を考えたもっと小さい単位の話をするべきで、身近で現実的な提案がほしい。 大規模な開発に着眼するのではなく、東ニュータウンなどを再活性化させる方法を探るのが良いのではないかな。 空き家になってしまふところに人を呼び込むためには、市からの補助金等を活用し既存の自治会に入ってもらえるようにしなければならない。今まで何十年かけて生活圏として成立してきたものを殺さないような施策を行なってほしい。 高齢者のためのまちづくりで大事なのは歩くことである。この沿線は、魅力的に歩ける場所が少ないように感じる。既存の公園や文化施設等を上手くつないでいくことも、新交通のまちづくりのポイントになってくる。 区画整理の遊歩道が整備されているところを全部散歩すれば、町内の人は毎日動くことができる。 散策ルートは、距離を短くして交通量が少ない裏通りを歩く方が適切。 自然の豊かさに価値を見出して住んでいる人もいるので、自然を損なう開発は受け入れられないのではないかな。 高岳引込線の先に散歩道に適しているところがある。自転車のルートを設けて、自然を活かしたまちづくりをもう少し広い範囲で考えた方が良いのではないかな。 沿線に診療所が多くあるので、健康づくりに活用できるのではないかな。 沿線には大企業がいくつか立地しているので、排熱などを地域のエネルギーとして使えないかな。 工場のグラウンドを住民が使わせてもらえるなら、資料では緑地や公園として整理しても良いのではないかな。

関係企業等へのヒアリング調査結果

1. 実施概要

(1) 目的

まちづくりについて具体的な検討に入る前に、沿線に立地する企業や学校等の意向を把握することが重要である。また、高岳引込線を活用した新交通システムの導入については、その費用や採算性だけを考えるのではなく、沿線地区にとどまらない小山市全体への波及効果も視野にいれて、様々な視点からまちづくりを考えていく必要がある。このため、下記のとおり産・官・学等の関係者にヒアリングを実施した。

(2) 調査内容

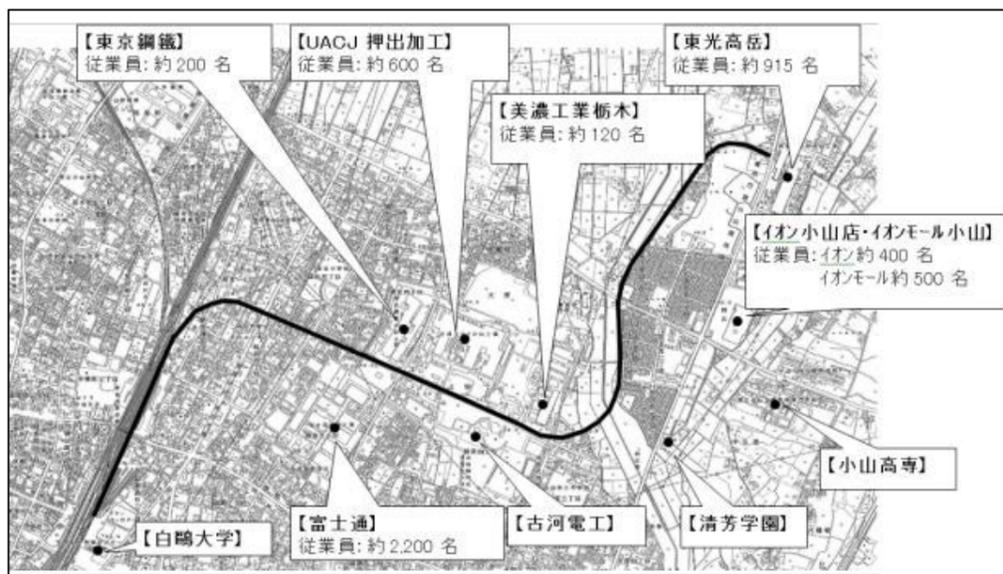
○企業等の概要

○沿線のまちづくりに関連する事項

- ・沿線の土地利用の状況（低未利用地等）
- ・社会貢献・地域貢献の取り組み状況
- ・電力利用の状況（省エネや再生可能エネルギーに関する取り組み状況）
- ・新交通システムや沿線まちづくりへの期待や意見

(3) 調査対象

産	工場	株式会社押出加工小山
		東京鋼鉄株式会社
		富士通株式会社
		株式会社東光高岳
		美濃工業株式会社
商業施設	イオン（イオン小山店、イオンモール小山）	
学	学校	小山工業高等専門学校
		白鷗大学
		清芳学園（保育園・幼稚園）
官	小山市	福祉課、健康増進課、高齢生きがい課、子育て・家庭支援課
その他	土地所有者	古河電気工業株式会社
	デベロッパー	T社、(他社調査中)



2. 実施結果

ヒアリングの調査の結果を調査対象別に整理した。

産	工場	暮らしを支える製品や飛行機等の部材など、多彩な技術を駆使した高品質の製品を製造し、国内はもとより海外にも出荷している。
		工場見学は見学ルートを設定し、近隣の小・中・高の授業向け等に依頼があれば実施している。電炉を使用している工場では、雷のような音がするので工場見学になじみにくいところもある。
		社内で省エネ部会を設置しており、地道な節電対策を検討・実施している。
		UACJ 所有の緑地部は、北側住宅地の緩衝帯となっており、今後、利用・開発する計画はない。近隣に与える騒音に特に気を配っている。以前、匂いや煙が問題になったことがある。
		工業系の大学が沿線にあれば、地元雇用につながる。
		沿線に商業施設や病院があるといい。
		従業員の車通勤や製品出荷のトラックの横断に支障がないように留意してほしい。
		イベント時(お祭りやイルミネーション等)の工場公開や、工場周辺の清掃など様々な地域貢献活動を行なっている。
		引込線までの距離は住んでいる地域によって平等でないで、みんなが使える施設を作って欲しい。
		事業の内容に対して検討の時間が短すぎると感じる。遠回りをしてもよいものをつくってほしい。
産	商業施設	・市とタイアップした高齢者家族や子育て世代が気軽に集えるコミュニティ施設を設置。認知症を患った人やその家族などが交流するほか、地域への情報提供の場となっている。少しずつ利用者が増えてきている。
		・小山市と結城市で文化的・芸術的活動をしているグループ・団体に限り、催事場スペースを無料で貸し出している。
		・客のターゲットを 30~50 代としているため、ティーンズ世代が少ない。
		・今後は、ショッピング目的だけでなく、色々な人が色々な目的で来てもらえるコミュニティセンターとしてやっていかなければならないと感じている。
		・店舗に眼科と歯科が入っているが、内科は年間客数が多くないと入らない。
		・月に 1, 2 回程度「モールウォーキング」を実施。公共交通に乗ってきてイオンを歩くという考えはいい。
		・クールシェアとして、夏の暑い日に公共交通を利用してお店に来た人に割引や特典があるという考えはいい。
・引込線からイオンまでは距離があるので、イオン方向にルートを追加するのはどうか。		
学	白鷗大	・東キャンパスの隣に新キャンパスを設け、本部と経営学部を移設予定。
		・市各課や商工会議所と多数の連携事業を行なっている。地元企業との交流はあまりないが、インターンや実習をしている。
		・新交通ができれば、高齢化する小山東ニュータウンがよくなるのではないかと。沿線に住宅ができると新交通の需要が高まるのではないかと。
	小山高専	・障がい者の雇用について、公共交通が充実している利便性の高いまちなかには授産施設が立地していないと感じる。
		・カフェやロブレの空きスペースで高校生が勉強している。高校生・大学生の居場所づくりも必要である。
		・新交通のイベントに合わせてオープンキャンパスをする等、ソフトの企画連携が重要である。

	清芳学園	<ul style="list-style-type: none"> 当園では子育て支援センターを設置。親と子どもが10人くらい集まって一緒に遊ぶ。その間、親が先生に相談ごとをしたり、子ども同士・親同士が友達になって交流できる場となっている。 子どもと二人きりでいる時間が長い親が多く、ストレスがたまりやすい。子育てに疲れた人がほっとできる場所が必要ではないか。 	
	高齢生きがい課	<ul style="list-style-type: none"> いきいきふれあいセンター（城北集会所、勤労青少年ホーム）では、高齢者が元気な生活を継続するために、趣味やレクリエーション、学習を通して仲間と交流を行うことで、閉じこもりの予防に取り組んでいる。 一般の人が高齢者宅の生活支援（掃除、買い物等）をできる場をつくることを進めている。将来的には雇用も参入させていきたいと考えている。 沿線には高齢者施設や診療所がいくつか立地している。介護保険施設は、介護保険計画に基づいて整備をしているが、今後、まちづくり計画と整合性を図って進めていくことも考えられる。 新たな施設をつくるだけでなく、いくつか小さなスペース（ボランティアによる花植えなど）を整備するのはどうか。 	
官	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> 開運おやま健康マイレージ事業をスタート。ウォーキング等を実施してポイントをためると特典等が得られる。沿線地域でもゲーム感覚でポイントを貯めることができると面白い。 高齢者だけでなく、子ども・子育て世代にとっても魅力あるまちづくりが必要である。 	
	子育て・家庭支援課	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援総合センターの利用者は、ベビーカー利用が多いが、駐車場が広くない。 ロブレリニューアル基本計画に子どもの遊び場「キッズランドおやま（仮称）」の設置があるが、現在のロブレ駐車場は立体駐車場であり女性は敬遠しがち。イオンに駐車して、新交通に乗ってロブレまで行けるとよい。 足利市の同様の施設は人気があり待ち時間が長い。小山市では待ち時間を有効活用できるように、予約システムの導入が要望されている。子どもは電車が好きなので、待ち時間に電車に乗って沿線地域で遊べるといい。 子どもが遊べる公共施設は、小山東出張所の子育てひろば、城北児童センターがある。 遊具が充実している広い公園は、家族で一日過ごせるためとてもにぎわっている。 新交通の一日乗り放題があれば移動も含めて一日中楽しめる。 テーマパークのように沿線をゾーン分け（工場見学・図書・カフェ・散歩ゾーンなど）すると日替わりで楽しめる。 	
	福祉	<ul style="list-style-type: none"> 沿線の工場見学ができるといい。 	
	その他	土地所有者	<ul style="list-style-type: none"> 古河電工(株)所有の鉱滓未処理の土地は、今年1月から太陽光発電の工事を着工。ただし、20年間の定期借地であり、恒久的な土地利用ではない。 処理済みの低未利用地も賃貸を考えている。倉庫等の物流施設を設置したいという提案を受けている。 沿線には、公共施設を設置できるとよいのでは。
		ディベロッパー	<p>【T社】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住むところと働くところが重要であり、その間を交通でつなげるべき。 小山市はまだ働く場所が少ない。働く場所をつくることはそこで働く人がそこに住むことにつながる。 引込線の末端に東京や他県から企業を誘致すべき。